



市民が作る
市民編集
のページ
Vol.117

乗れば実感 ジモ鉄上電

サイクルトレインで魅力を再発見

上電＝今年で開業88年を迎える上毛電気鉄道は、長らくこの愛称で地元の人々に親しまれています。この上電の魅力を、ワカモノ記者が紹介します。

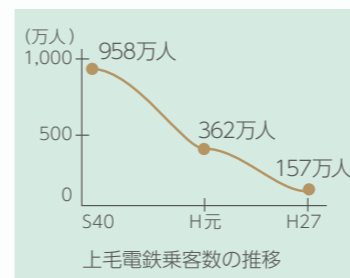
担当は、馬持沙織・遠藤敦美・川田和樹・田端芳紀・渡辺楓

図 交通政策課 ☎ 027-898-6238

知っていそうで知らない上電のあれこれ。前橋の新しい魅力をどんどん発信していきます。(渡辺)



今回私たちが上電をテーマに選んだのは、全国的にも珍しい、自転車に乗せることのできるサイクルトレインのことを知りたいと思ったため。また、それ以外に、どんな取り組みをしているのか、上電本社総務部次長の新木さんに話を伺いました。



01. 車内の様子を説明してくれた総務部の中島さん(右から2人目)
02. 運転席。年季の入ったメーターが並ぶ
03. 「今まで続けられたのは、地域の皆さんのおかげ」と新木さん
04. 上電のさまざまな取り組みを取材するワカモノ記者

赤城南麓を結ぶ地域の鉄道

「上毛電鉄は、昭和3年に赤城南麓の前橋市と桐生市を結ぶ鉄道としてスタートしました。車社会の影響や沿線の学校の移転・廃止などで、利用者はピーク時の6分の1にまで減少してしまい、利用者の維持・増加が課題となっています」と語る新木さん。

そのため、東武鉄道と連携したスカイツリーの実施やパークアンドライドの推進、開業当時から運行している車両・デハ101の貸し切りや電車運転体験イベント、デコトレインなど、さまざまな取り組みをしているということです。

電車×自転車 広がる可能性

上電が13年前に県内で初めて導入したサイクルトレイン。平日の通勤通学ラッシュ過ぎと休日、夏休み中は一日中利用できます。後部車両の所定の位置に自転車を止めれば、どの駅からでも、どの駅へでも行くことができ、車に乗らない高校生などの移動にも便利です。また、運賃

半額のサービスもあり、自動車運転免許を返納した高齢者にも助かるサービスです。

サイクルトレインで沿線スポットへ

このサイクルトレインと赤城南麓一日フリー切符などを利用すれば、沿線のスポット巡りも楽しめます。

サイクルトレインは自転車を2台使って通学する私にはとても魅力的なサービス。沿線に住んでいれば良かったのに、と思います。(遠藤)



みんなで乗れば、楽しい夏の思い出に

城東駅で下車して児童文化センターでプラネタリウムなどを満喫したり、天王宿駅で下車してレトロな桐生明治館でノスタルジックな気分を味わったり、楽しみ方はいろいろです。グループで出掛ければ、車るときとは違い、みんなでゆっくり景色を楽しめ、会話もいつもより弾みます。新木さんによれば、現在では年間約4万人が利用するというこのサイクルトレイン、各駅に跨線橋こせんきょうがなく、車両とホームの高低差が少ないことが、後々のサービスに貢献したようだ、とのこと。

見直される公共交通機関

少子高齢社会に対応するため、前橋市は公共交通機関の見直しやLRT※の導入などを検討しています。その流れとリンクするかのような上電のサイクルトレイン。

沿線住民はもちろん、多くの人に活用してほしいサービスです。皆さんも、車に乗らない一日を、上電で楽しんでみてはいかがでしょうか。

赤城駅から乗り換えて、スカイツリーにも行けるんですね！新たな魅力、発見です。(馬持)



高校生の頃、部活の試合で上電を利用しました。サイクルトレインは若者にも便利なサービス。ぜひ、活用してほしいです。(田端)



多くの歴史、価値が詰まった上電。これからも地域に愛される存在でいてほしいと思います。(川田)



編集後記



ワンマン電車の乗り方

上電は23駅中16駅が無人駅。無人駅からワンマン電車に乗るときは整理券を取り、降りるときは運賃と整理券を運賃箱に入れてください。また、有人駅では係員に渡してください。

※LRT = Light Rail Transitの略。低床式車両の活用や軌道・停留場の改良による乗降の容易性、定時性、速達性、快適性などの面で優れた特徴を有する次世代の軌道系交通システム。